

特別活動「手話合唱 2020」

清川村立緑中学校



単元（題材）目標

- 全校生徒で協力し、意欲的・積極的な活動実践を通して、自己表現力を高める。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする資質や能力を育成することを目指す。（総合的な学習の時間との関連）
- 互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することの重要性を理解し、公正・公平な社会の実現に努める。（道徳教育との関連）

（1）実施時期

令和2年 6月～10月

（2）対象（学年等・人数）

全校生徒 69名

（1学年26名、2学年25名、3学年18名）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：全教職員 18名

（4）実施内容

「全校生徒による手話合唱」

- 「神奈川県手話言語条例」の制定に伴い、手話に対する理解を深め、様々な立場の方々と共に共生できる地域社会を作る取組の3年目となる。
- 昨年、一昨年と同様に「文化発表会」（学校行事）、「厚木愛甲地区中学校文化連盟芸術祭」（校外行事）で全校生徒による手話合唱を発表できるよう計画を立案した。しかし、コロナ禍における制限等もあり、内容を見直して手話合唱に取り組みませた。今年度は、以下のような変更点の下、全校生徒で取り組んだ。



① 変更点その1 校内における手話研修、手話練習

コロナ禍で外部講師を招くことができなかったので、手話を理解している教職員が中心となり、生徒への指導を全職員で行えるように研修を進めた。今年度の合唱曲は「糸（作詞・作曲 中島みゆき）」。

歌詞に沿った手話の図を担当職員が作り、廊下に掲示したり、生徒一人ひとりのタブレットに動画配信したりして休み時間等も自主的に練習ができるよう配慮した。また、これまで手話合唱に取り組んできた2、3年生がリーダーとなり、パートごとに手話練習を重ねてくれたことも成果の一つといえる。

② 変更点その2 発表形式の変更

コロナ禍の影響も受け、発表スタイルに制限がかかったが、今の状況でできる最大限の努力を皆で生み出し合唱を披露した。校内行事では、立ち位置の工夫とマウスシールド着用により、観客無しの体育館で手話合唱を発表。録画した映像は期間を決めて各生徒のタブレットに配信し、各家庭で演奏を見られるようにした。「厚木愛甲地区中学校文化連盟芸術祭」では、ステージに立つ人数の制限があったため、3年生だけを本番のステージに上げ、1、2年生の手話の様子を事前にビデオに収録し、映像とのコラボレーション発表という形式で手話合唱を披露した。目標を明確にし、生徒たちのやる気と根気を引き出す取組につなげた。

（5）成果

- 手話合唱は達成感が大きく、本校の魅力的な取組の一つとして定着してきた。音楽科を中心に、全職員が生徒とともに手話に関わっていくことも大きな成果となっている。次年度も継続して、生徒たちによる手話合唱に取り組んでいきたいと考えている。